

29. 生理的ペースングの現状

桜井 淑史 (新潟市民病院第二外科)

従来の Single chambered pacing のなかの VVI では automatic rate response のない点と、心房心室の連続性がえられぬため、adamsstokes 発作の防止にはドラマチックに効果はあったが、血行動態的には改善度が少なかった。

このため最近では more physiological pacing として、Dual chambered pacing を中止に心房心室の連続性を重視してきている。然し心房粗細動、洞停止の症例などでは運動負荷時のレートの増加の指標になる p 波がないため、automatic に rate response のえられる Special sensor を用いた PM が登場している。

生理的ペースングに入る PM は 1) AAI, 2) VVI + Act, VVI + IX 以上 Single chambered pacing, 3) VDD, 4) DVI, 5) DDD Dual chambered pacing が行なわれている。このうち DDD は 1 個の PM で AAI, VDD, DVI, VVI が automatic にえられるもので、この DDDPM 40 例の成績を生理的ペースングの説明と併せ追加報告した。

30. フォロー四徴症根治手術の術後遠隔成績と問題点

今泉 恵次・宮村 治男  
金沢 宏・福田 純一 (新潟大学第二外科)  
小熊 文昭・岡崎 裕史  
山崎 芳彦・江口 昭治

昭和40年より昭和59年7月まで教室で施行したフォロー四徴症根治手術症例は 277 例で、手術死亡 32 例 (11.5%)、病院死亡 5 例 (1.8%)、遠隔死亡 11 例 (4.0%) の成績を得ている。根治術後の患児の大多数は健康でほぼ正常の社会生活が可能であるが、残遺症や遠隔期の不整脈・心不全で悩む症例も少なからず認められる。教室ではこれまで 8 例の遠隔期再手術を経験している。フォロー四徴症根治術後では長期に渡る経過観察と管理が重要である。

31. A-C バイパス術 100 例の経験

春谷 重孝・伊藤 文夫 (立川総合病院心臓)  
小熊 文昭・竹内 誼 (血圧センター)  
坂下 勲

昭和57年5月17日から昭和59年9月4日までに狭心症・心筋梗塞に対し 100 例の A-C バイパス術を施行した。これら症例の手術成績、グラフト開存率、遠隔成績等について検討し、特に血栓溶解療法 (PTCR) や経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) 後の A-C バイパス術の手術成績について報告する。

32. 急性期の心筋梗塞切除術

一左室自由壁および心室中隔破裂例について一

大関 一・矢沢 正知 (新潟大学)  
林 純一・宮村 治男 (第二外科)  
山崎 芳彦・江口 昭治

急性期心筋梗塞に対しては、血栓溶解療法、補助循環、積極的な内科的治療が原則である。しかし、急性期でも、心室中隔穿孔 (VSR)、自由壁破裂等により手術を要することもある。最近経験した 3 例を中心に以下に報告する。

症例 1, 63 才男, 心筋梗塞後 2 カ月で VSR が発生, この 26 日後に梗塞部切除とパッチによる閉鎖を行い救命した。

症例 2, 53 才男, 心筋梗塞発生 2 日後に VSR が出現, IABP でも改善がないため, 12 日後に穿孔部を含めた梗塞部切除を行った。中隔閉鎖後, 左室自由壁の一部をダクロンパッチにより形成した。術後は軽快退院した。

症例 3, 61 才男, 心筋梗塞発生後 PTCR を受け症状は改善した。5 日後激しい胸痛とともに血圧, C.O の低下あり, 心エコー等により左室破裂と診断された。緊急手術を行い, 梗塞部切除と症例 2 と同様にパッチによる置換手術を行った。術後は軽快退院した。

以上診断と手術適応の時期等を報告する。

33. 過去一年間に経験した乳児 (12ヶ月未満) 先天性心疾患手術症例

安藤 武士・花田 健治 (日本赤十字社医療センター心臓血管外科, 小児科\*)  
藤田 康雄・藺部 友良\* (同)  
赤松 洋 (新生児・未熟児科)  
小菅 敏夫・大和 靖 (新潟大学第二外科)

(1) 昭和59年1月より今日まで (11月30日), 当施設で経験した 12 ヶ月未満先天性心疾患手術症例 12 例を報告する。

(2) また, 当施設に於ける小児心疾患診療の概況をも合わせて紹介したい。

34. Femoropopliteal bypass 術の検討

鬼塚 史朗・金沢 宏 (立川総合病院心臓)  
春谷 重孝・竹内 誼 (血圧センター外科)  
坂下 勲

昭和 57 年 9 月から昭和 59 年 10 月までの 2 年 1 カ月間に, 立川総合病院 心臓血圧センター外科において施行した Femoropopliteal (F-P) bypass 術は 16 症例で,